

会議議事摘録

会議名	平成 28 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 28 年 6 月 25 日 (土曜日) 14 : 00 ~ 16 : 30 (2.5h)
場所	本校 3 階 302 教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>②学校：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長兼学科長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長)、(計 13 名)</p> <p>③事務局：手塚理恵子、高橋 稔 (計 2 名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計 21 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付： □資料 1：平成 27 年度第 3 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方、□資料 3：平成 27 年度活動の自己評価報告書 (点検大項目まとめ)、□資料 4：平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法</p> <p>②本日配付： □資料 5：平成 28 年度委員名簿、□資料 6：平成 27 年度第 3 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 28 年度校務分掌、別添 B：平成 28 年度学事日程、別添 C：平成 28 年度オープンキャンパス日程、別添 D：平成 28 年度クラス担任一覧、別添 E：平成 27 年度進路決定状況、求人件数、別添 F：平成 28 年度 W S C P の年間計画例、別添 G：平成 28 年度前期授業アンケート実施計画、別添 H：平成 28 年度教員研修計画・実績、別添 I：平成 28 年度授業公開実施要領 (案))</p> <p>③本日配付印刷物： □平成 29 年度入学案内書、□平成 29 年度募集要項、□平成 28 年度学生生活ガイド、□平成 28 年度講義要項、□2016Challenge 就職活動ノート</p> <p>④回覧資料： □資料 1：平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目)、□資料 2：平成 28 年度の各学科運営計画</p>
議題等	<p>1. 今年度委員の確認及び本日出席の新任者紹介 (説明者：事務局高橋)</p> <p>事務局より、資料 5 に基づき委員の確認が行われた。また、異動により村山由美医療秘書科副学科長と三宅かおり教務委員長が新任、委員会の事務局に学務課の手塚が加わ</p>

ったことについて報告が行われた。

2. 校長挨拶

橋本校長より、5月30日に中央教育審議会から実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の創設が文部科学大臣に答申され、平成31年4月の開設を目標にして具体的な制度設計や法改正が行われる予定である。これは、これまでのアカデミックな大学の学位（アカデミック・ディグリー）に対して職業学位（プロフェッショナル・ディグリー）を与える新たな学校種が高等教育機関に生まれることであり、高等教育の複線化の動きが明らかになった。その流れの中に一定の教育水準を持つ専門学校も加わっていく道筋が可能性として示されたことになる。

本校においては、昨年度、看護科の開設を契機に、医療と福祉の専門学校として学科間の連携を強化して他校との差別化を図ることと、既存学科の再編や社会人・外国人を対象とする教育の可能性も視野に入れつつ、平成30年度以降の18歳人口急減期に向けた学科再編計画に着手した。

今年度は新たな高等教育機関の動向をにらみつつ、教育の可視化、さらには教育の質保証という観点から効果的な情報公開を行い、2-40プロジェクトに示した選ばれる学校（プレステージ・スクール）を目指していく。さらに、次の時代に向けての新たな動きを具体化していく年であるとの認識のもとに、それをより円滑に進めるための業務改善を専門学校部門の事業計画の大きなテーマとしている。また、今年9月には介護福祉科の職業実践専門課程の認定申請も予定している。

学校関係者評価委員会は本日を含めて今年度も合計3回の開催を予定している。委員の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：橋本校長、宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋）

平成27年度第3回委員会以降の主な経過について、各担当より資料6に基づき報告が行われ、確認、了承された。なお、委員より就職指導について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成27年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料3の構成、及び表中の「※1意見・課題への取組・改善の進め方」と「※2現状・進捗状況と進め方」の記述経過について説明が行われた後、項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。なお、委員より以下について質問と意見があり、担

当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①AO入試入学者の退学率について
- ②強み発見ワークについて
- ③兼任講師への運営方針の浸透について
- ④介護福祉科の国家試験対応について
- ⑤速記コンピュータ科募集停止後の教育の方向について

6. 平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料 2 の構成、及び表タイトルの「現状の取組状況・総括」「課題」「今後の改善方策」の記述方法、記述経過について説明が行われた後、基準の項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。なお、委員より以下について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①キャリア教育について
- ②授業アンケートについて
- ③介護福祉科の留学生募集について
- ④鍼灸医療科の学費改定について

7. 平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料 4 に基づき、今年度の 3 つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）について説明が行われ、確認、了承された。なお、委員より募集広報協議会について質問と意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

事務局より、第 2 回委員会は 11 月に開催を予定しており、9 月に日程調整を行った上で案内をすること、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成 27 年度委員会報告に示された課題への取り組み進捗報告
- ・平成 28 年度重点目標の中間点検報告
- ・平成 28 年度の学校関係者評価報告のまとめ

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼が行われ、閉会した。

以上

平成 28 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告

○平成 27 年度第 3 回委員会以降の経過について、宮下事務局長、事務局高橋より資料 6（別添 A～I）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 平成 28 年度の組織運営関連

- ・平成 28 年度校務分掌（別添 A）
- ・平成 28 年度学事日程（別添 B）
- ・平成 28 年オープンキャンパス日程（別添 C）
- ・平成 28 年度クラス担任一覧（別添 D）

2. 自己点検・自己評価関連

(1) 実施日程と実施内容

日程	実施内容
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 / 27 : 4 月自己点検委員会 ・平成 27 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）最終確認（回覧資料 1） ・平成 27 年度学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方記述
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 / 26 : 5 月自己点検委員会 (1)平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）まとめ (2)平成 27 年学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方進捗状況確認 (3)平成 28 年度重点目標と達成するための計画・方法提示 ・ 5 / 27～(1)の最終整理、確定、(2)の整理
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 / 14 : 学校関係者評価委員会へ(1) (2) (3)を送付 ・ 6 / 22 : 6 月自己点検委員会 ・ (1) (2) (3)を確認 ・ 6 / 25 : 平成 28 年度第 1 回学校関係者評価委員会 ・ (1) (2) (3)を報告、説明、意見聴取

3. 各学科の運営計画関連

- ・平成 28 年度学科運営計画を策定している。（回覧資料 2）
- ・記述項目と内容は以下の通り。

項目	内容
1. 学科の教育目標及び業界ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・【卒業生像】（卒業認定に必要な知識・技能・態度 : Diploma Policy） ①知識の領域、②技能の領域、③態度の領域 ・【業界の人材ニーズの動向】
2-1. 教育支援活動の目標と年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援活動目標（26 年度に設定した目標を継続）に対する具体的な取り組み
2-2. 教育支援活動の目標と年間計画	<ul style="list-style-type: none"> ・上記以外で特に退学防止対策やその他自己点検・学生満足度調査からの課題等に対する学科独自の取

	り組み ・また、T P Cの育成に関する学科独自の取り組み、提案等
2-3. 年間計画	・2-1, 2-2 に掲げた年間計画（退学防止含む）に関する具体的な計画事項を月別に記載
2-4. 教育支援活動の目標と年間計画-実習指導	・実習指導のポイントや、主な指導項目
2-5. 教育支援活動の目標と年間計画-就職指導	・就職指導体制や指導のポイント、主な計画
3-1. 資格取得目標の設定と結果-成果目標	・主な検定・資格等の取得目標（事業計画に沿って記入）、または前年結果を下位目標
3-2. 就職目標の設定と結果-成果目標	・就職目標、専門領域への就職状況等
3-3. 退学率の低減目標と結果-成果目標	
4. カリキュラム点検への取り組み	・カリキュラムに対する業界、外部機関からの意見収集への取り組み、編成方針に関する事項

4. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 27 年度の重点目標として年間の退学率 3.5%以下を設定して退学防止に取り組んだ。
- ・平成 28 年 3 月末の退学（除籍を含む）データ。
- ・指導、支援に必要な情報を共有して退学防止に役立てるために、個人情報削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載している。

(2) 就職活動の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・平成 27 年度進路決定状況、求人件数。（別添 E）
- ・平成 28 年度 W S C P の年間計画・医療事務系学科の例。（別添 F）

5. 授業アンケート関連

(1) 平成28年度前期実施計画（別添 G）

項目	内容
実施学科	全学科
実施科目	前期開講の全科目（看護科は講義科目）
実施時期	平成28年 6 月 27 日（月）～ 7 月 1 日（金）
調査項目	平成26年度改訂アンケート用紙

6. 教員研修関連

(1) 平成 28 年度実施計画・実績（別添 H）

- ・職業実践専門課程の認定要件に基づく
 - ①専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修
 - ②授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

(2) 平成 28 年度授業公開実施要領案（別添 I）

- ・今年度より教務委員会が運営を担当
- ・教員のインストラクションスキル向上を図ることを目的として実施
- ・実施期間は 10 月 11 日（火）～24 日（月）の 2 週間を予定

7. 職業実践専門課程関連

(1) 医療事務分野教育課程編成委員会（医療秘書科、医療マネジメント科・診療情報管理専攻科）

- ・ 7/25 平成 28 年度第 1 回委員会
- ・ 委員会における意見、提案への取組（活用）報告
- ・ 平成 28 年度学科運営と平成 29 年度カリキュラム編成
- ・ 医師事務技術専攻科の準備他

(2) 福祉分野教育課程編成委員会（介護福祉科）

- ・ 7/21 平成 28 年度第 1 回委員会
- ・ 委員会における意見、提案への取組（活用）報告
- ・ 平成 28 年度学科運営と平成 29 年度カリキュラム編成
- ・ 職業実践専門課程の平成 28 年度認定申請に向けた取組

○平成 28 年度校務分掌については、橋本校長より以下の追加説明が行われた。

- ・ 昨年度の学科再編 P T を発展させた新規教育開発 P T、また募集広報協議会と進路指導協議会を校長室のもとに新設した。
- ・ 募集広報協議会は、募集広報活動についてより学生に近い場の教員と広報室とが意思疎通を図り、一緒に進めていく場であり、進路指導協議会は、学科の教員と C S C のメンバーを中心に、本校の強みやディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーという学校としてのアイデンティティーを確認した上で、次の時代へ向かっていこうという場である。
- ・ また、ハラスメントの範囲を広げて、昨年度までのセクシャル・ハラスメント防止委員会をハラスメント防止委員会に変更した。

○授業公開については、三宅教務委員長より以下の説明が行われた。

- ・ 昨年度までは各学科長を実施責任者としていたが、今年度からは校長の指揮下で教務委員会が運営する。
- ・ 期間は全学科共通で 2 週間を設定する。今回から常勤教員は全ての授業を公開してもらう。兼任講師にも呼びかけを行い、賛同者には任意で公開に参加していただく。
- ・ 新ルールとして、学科長は学科所属の常勤教員の授業を少なくとも一つ以上参観することを義務づけた。また、常勤教員は必ず複数の授業を参観することとし、全く参観しなかった教員をゼロにすることを目標にしている。ただし、看護科に関しては努力義務とした。
- ・ 参観者は常勤教員、兼任講師（任意）、事務職員（任意）を対象とする。兼任講師が参観する場合は、原則として自分の授業の公開を前提とする。
- ・ 授業公開ができない場合には、教務委員会に授業非公開申請書（仮称）を文書で出してもらい、理由等を審査した上で校長が認めれば公開授業から除く。
- ・ 公開する授業の一覧を作成、配信して参観の推進を図る。
- ・ 参観の申し込みは、昨年度同様、公開する当日までに授業公開者に対して直接申し込む方法とする。参観レポートは、なるべく簡易で、必要な事項をきちんと報告できるような書式を検討中である。教務委員会と公開した方に直接送信で提出してもらう予定である。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 就職指導について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
------------	-----------

<p>□キャリアサポートプログラムの資料を見て、就職指導を時間割の中に組み込み丁寧にやっていることはわかったが、ここまでしなければいけないのかと思う点もある。専門学校はこのようなする必然性があるのか、それとも本校の特色なのか。</p>	<p>□丁寧過ぎて自主性が育たないという意見もあるかと思うが、自由参加でオリエンテーションを行うスタイルは今の学生には通用しない。このぐらい手をかけても就職活動を行うときに履歴書がきちっと書けない状況もある。他校でも同じようなことはやっている。</p> <p>□自分で考え、自分で一歩前へ進んでコミュニケーションをとる。つまりTPCができていけば必要ないとも言えるが、専門に対する目的意識が絞れていない学生も多い。特に、医療事務系の学科では、裾野の部分の学生に2年後の自分の未来像を見せてあげるようなプログラムが必要である。学生の変化に対応するような見直しも含めて、今年度の進路指導協議会の一つの検討テーマにしている。</p>
<p>□高校でも就職を希望する者に対してはかなり丁寧にやっている。また、大学でも丁寧に就職指導をするところが人気で、しかも就職状況がよいという状況がある。専門学校は就職状況が重要な事柄になるので、このような形でやっていく必然性もあるかと思う。もちろん、学生自身が、自分なりの意見を持っていなければ就職戦線に勝てないが、このぐらいはやらないと状況を改善できないところがある。チャレンジノートはよくできていると思う。</p>	<p>□ご意見として伺った。</p>
<p>□1年生の初めからリクルートスーツは驚きだったが、そのことによって2年後の就職を見据えて授業や検定試験に臨めた。意識づけという意味ではとても助かった。</p>	<p>□今は週に1～2回スーツで登校していると思うが、ご家族の中で就職に関する話は出ているか。</p> <p>□あるレベル以下の大学ではもっと丁寧にやっている。本校でも、目的意識を持った人以外のところをすくい上げるといふか、2年間なり3年間この学校で学んだ成果が見える形にしなければいけない。今年度、進路指導協議会の課題の一つとしてプログラムの検討を行いたい。</p>

5. 平成 27 年度年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について

- 事務局高橋より資料3の構成、及び表中の「※1 意見・課題への取組・改善の進め方」と「※2 現状・進捗状況と進め方」の記述経過について説明が行われた。
- 保坂委員長より、資料3は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 重点目標

①AO入試入学者の退学率について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 「AO入試入学者の退学率が高い」とあるが、入試方法別の退学率はわかるか。また、読売新聞の調査によると、大学の年間の退学率が国立は3%、公立が4%、私立が9%、全体では8%である。入試方法別ではAO入試が16%、指定校推薦が9%、一般入試が6%で、大学もAO入試の退学率が十分高い。専門学校も全体的にAO入試の退学率が高いと見てとれるが、この原因は何か。</p>	<p><input type="checkbox"/> 入試方法別の退学率データは出している。AO入試はアドミッション・ポリシーに共感を得た人たちが入ってくるもので、本来は退学者が少ないはずだが、大学も含めて、学科試験を課さない便法としてのAO入試になっている現実がある。専門分野を学ぶに当たっての事前学習の課題を与えとか、面談等の機会を持って、入学までにモチベーションや学力面での準備を含めた仕掛けをすることが退学防止につながると思うので、それは大きな検討課題としたい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 昨年度は、AO入試の退学者数が比較的少なかったという話ではなかったか。</p>	<p><input type="checkbox"/> それでAO入試の回数を増やすということもやったが、AO入試で来る学生の中には学力的に厳しい学生も確かにいるので、入学時点までに本校での学習内容にある程度適応できるようにもっていくことが課題として改めて浮かび上がってきた。（橋本校長）</p> <p><input type="checkbox"/> AO入試での退学率は、平成25年、26年度は20%前後だったものが、昨年度は6%台になったことを前回委員会に報告している。</p>

(2) 項目別1：教育理念・目的・育成人材像

①強み発見ワークについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> リクルート・マーケティング・パートナーズの協力による「強み発見ワーク」ではどのような発見があったのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 客観的にわかる一番の強みは、駅から近いということだ。強みの発見だけではなく、弱みを発見して、それを解消していけば全体の底上げになってくる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 最終的な報告はこれから出てくる。我々が中で感じている強みと、外から見た場合の強み、競合校との関係等における強みという意味では違うところがあると思う。そのあたりをもう一回エビデンスとともに確認し、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの構築に生かしたい。リクルートはそういう点が強いので入ってもらっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当然弱みも検討課題に入っている。</p>

(3) 項目別2：学校運営

①兼任講師への運営方針の浸透について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
------------	-----------

<input type="checkbox"/> 運営方針が兼任講師にどこまで浸透するのか懸念がある。授業公開でも兼任講師の場合は任意と、遠慮した表現になっている。常勤教員より兼任講師の数が多いいことを考えると、そこへの働きかけは重要であり必要性が高い。文書だけで大丈夫か。	<input type="checkbox"/> TPCも含めて、兼任講師との協力体制の構築は大きな課題だと思う。年度当初の会だけではなく、学科レベルの日頃の連携の中でより深めていきたい。逆に、アイデアや提案をいただければうれしく思う。
---	--

(4) 項目別 3 : 教育活動

①介護福祉科の国家試験対応について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 介護福祉科のところで「国家資格を見据えた授業展開」とあるが、これは試験を受ける形になったのか。 <input type="checkbox"/> 入学案内書には試験を受けるという形で書いていないので、不明確な面がある。 <input type="checkbox"/> 学校に行った人が損をしてしまうような雰囲気が出て、募集に響くのではないか。	<input type="checkbox"/> 今年の入学生から、全員、国家試験を受験するという方針である。 <input type="checkbox"/> 国家試験になることが決定したのが3月の終わりだったので、要項にはきちんと反映されていない。 <input type="checkbox"/> その辺はオープンキャンパスで触れている。 <input type="checkbox"/> 養成施設を経ると時間もお金もかかるので大変だが、介護福祉科の本科生は学習継続意欲が高く、卒業後も伸びしろがある。養成施設の2年間は介護福祉士の職業人生にとって全く無駄ではなく、むしろこの2年間で生きているという実態がある。 業界の風評被害的なところもあり、介護の養成施設は今年度も全国で募集定員 50%を満たしていない。その中で本校はあえて職業実践専門課程を申請する。本校の強みをよく知ってもらうための広報活動を意図的にやっつけていかなければいけないと思っている。
<input type="checkbox"/> 介護福祉士の先にケアマネジャー等の資格を目指している方もいる。実務経験だけで取った人も評価できる面もあるが、長い目で見れば、養成施設で体系的に勉強した方がケアマネジャーの資格を取ったほうが評価されると思う。	<input type="checkbox"/> 看護師は介護福祉士の方とパートナーやチームとして働くことが多いが、きちんとした基礎教育を受けてきた人とは仕事に通じていく。教育的な実習を踏んでいることと倫理的な教育をきちんと受けてきているかどうかで大きな違いがある。

②速記コンピュータ科募集停止後の教育の方向について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<input type="checkbox"/> 速記コンピュータ科は学生募集を停止するが、「業界動向に基づいた新たな教育システムを検討中である」とある。何か進展は見えたのか。	<input type="checkbox"/> 今の速記者の仕事の実態に合わせた教育を念頭に置いて、業界との連携の中で実現に向けて検討、協議しているところである。

6. 平成 27 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）について

○事務局高橋より資料 2 の構成、及び表タイトルの「現状の取組状況・総括」「課題」「今後の改善方策」の記述方法、記述経過について説明が行われた。

○保坂委員長より、資料 2 は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行わ

れた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 基準1：教育理念・目的・育成人材像

①キャリア教育について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□キャリア教育イコール就職指導ではないと思う。各学科に資格取得目標があるが、専門的な資格以外に、例えば話し方、日本語の力、ビジネスマナー等、生きる力を育てるような資格講座をキャリア教育の中に入れることはできないか。</p> <p>□キャリアサポートプログラムの中に組み込む形でなくても、学校全体で取り組むものとして考えていただければと思う。</p>	<p>□2-40の考え方につながると思うが、自動化の中で機械とかロボットに代わられる職業が多くなると言われている中で、人間教育という部分はしっかりやらなければいけない。例えば医療秘書科では、現状は医療事務、診療報酬等の授業が中心になっているが、人と関わるベーシックな部分の教育も改めて考えていかなければいけない。そういった勉強をさせるためには、学ぶための励みとして検定や資格自体を取らせるような工夫をキャリア教育の中に入れていかなければいけないと考えている。</p> <p>□ご指摘の点は、それぞれの学科が学科の特性に応じてカリキュラムの中に入れてやっているという現状があると思う。</p> <p>□受験対策など、具体的な就職対策はもっとCSCが中心になって動いてもいいような気はしている。</p> <p>□本来、キャリアデザインというのは就職対策だけではなくて、全体的なものであるべきだと思うが、社会全体の状況、学生の状況を考えると、どうしても就活支援プログラムに終始せざるを得ないところはあると思う。それ以外のものは、それぞれの学科のカリキュラムの中で対策をしていて、医療マネジメント科では、例えば自分の意見や考えをきっちり整理してまとめて、さらにそれを文章や口頭で発表する力を補強していくカリキュラムがある。29年度のカリキュラム案でも反映させていきたいと考えている。</p> <p>□医療マネジメント科の平成29年度のカリキュラムの中には、ビジネスマナーという科目を新設することのほかに、プレゼンテーション的なものや自分の考えを文章で表すような科目の統合的なものを入れることを検討している。</p>
<p>□対人援助職は数十年後も残っていく職業の中の一つだと思う。本校の強みを伸ばす意味でも、コミュニケーション技法を学ばせてはどうか。</p>	<p>□看護科では、「在宅看護論」という科目の中に接遇・マナーを入れている。訪問看護に伺ったときの玄関での靴の脱ぎ方、お茶のいただき方、お年寄りの方たちが不愉快な思いをしないような行動など、人間と人間</p>

の関係に関わる学習をしている。(前田学科長)

□去年、2年生でコミュニケーション能力を高める授業を試験的に行った。その学年が専攻科に上がってきたが、グループワークが自然にできるようになってきている。できれば1年次にそういう経験をさせて、コミュニケーション能力を少しずつ高めていくことが必要ではないかと思った。(菊池学科長)

□介護福祉科では、新しく「日本文化論」という科目を入れた。具体的にはマナーとか挨拶で、外国人の入学者も視野に入れて、日本のしきたりなども入っている。文章能力やプレゼンテーションについては、「介護福祉ゼミ」という授業の中で行っている。

□鍼灸医療科も1年生のときに「鍼灸ゼミ1」という科目の中で、コミュニケーション力、人に伝えていく力を身につけさせるために、統合医療に関してテーマを選び、調査し、最終的にはプレゼンテーションをする授業を取り入れている。各実習の中では、身だしなみというところから医療人のマナーを共通認識させていくことも取り入れており、3年次の集大成として、臨床報告会をプレゼンテーション形式で行っている。

1年生のときにはかなり困惑していた学生もそれなりに課題をクリアし、力を身につけていると思っている。

□医療秘書科は、医療の現場で働く人の人間性の醸成というところも含めて「手話」という授業があり、「ホスピタリティ」という授業も当初から入れている。さらに、社会に出たときに、同じメモ書きを渡されるのでも見え方や受け取り方が違うというところを認識してもらうために、「ペン字」の授業をずっと入れている。また、医師事務作業補助者の教育において秘書的な素養も充実させていかなければいけないと思うが、医療マネジメント科との整合性を考える必要があるので、29年度のカリキュラムで手当てするかどうかは今後検討していく。

□ドラッグストアや調剤薬局の方の話を知ると、コミュニケーション力を育ててほしいと言われる。講師の先生方と話をしながら、全ての教科にできるだけやり取りをさせたり、グループで競争させたり、プレゼンテーションができるものを積極的に入れている。

□カリキュラムの中では、社会人性を身につける目的

<p>□学校全体でT P Cの強化に向けた新たな枠組みをつくる必要があるかと思いましたが、先生方が各学科の特性に応じてさまざまな工夫をされていることがよくわかった。</p>	<p>で1年次で「ビジネス実務」、2年次は前期に「ビジネスコミュニケーション」という科目を設けている。他の科目においても、レポートを書く機会や英語の授業ではスピーチも行われている。速記の現場に出向いたときに顧客対応の場面で非常に役に立ったという卒業生の声もあるので、重点科目と捉えている。</p>
--	--

(2) 基準3：教育活動

①授業アンケートについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□授業アンケートは、学生にもフィードバックすべきではないか。具体的には、「この科目は前期ではなく後期にやったほうがよい」という意見を何回も書いているのに変わらない。変わらない理由を教えてあげないと、どうせ私たちが意見を言っても何も変わらないという気持ちになる。</p>	<p>□集計結果は公表しているが自由記述をフィードバックすることはもともと検討していない。学生からの意見は学科の責任者が受けて、学科運営計画なりカリキュラムに反映するという仕組みでやっている。学校への要望をフィードバックするとなれば、どこまで、どういう範囲で、どのようになどが、自己点検委員会での検討テーマになると思う。</p>

(3) 基準5：学生支援

①介護福祉科の留学生募集について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□留学生の対応というところで「今後予測される介護福祉科の留学生の増加等」云々とあるが、これは経済連携協定を見据えたものと捉えていいのか。</p> <p>□外国人も検討して、数を増やしていただきたい。</p>	<p>□出入国管理法の改正が国会で認められると、介護福祉士の資格を持つことが日本の在留資格になる。介護はどの養成施設も募集は非常に厳しい状況で、外国人は教育対象の一つになってくるであろうし、日本の人口が減っていく中で外国人にも頼らざるを得ない状況が出てくる可能性がある。法案が通ったら、より具体化していくことになると思う。</p> <p>□介護福祉士に当たる資格は諸外国にはない。教育の対象として外国人を視野に入れて、準備はしていきたい。</p>

(4) 基準7：学生の募集と受入れ

①鍼灸医療科の学費改定について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□鍼灸医療科の学費を改定したということだが、下げないと厳しい状況か。</p>	<p>□他校も下げているので、下げないと選択肢に入れてもらえないという状況にある。ただ、厚生労働省で鍼灸医療の教育施設のカリキュラム改善検討部会が動い</p>

	ており、質的向上のため臨床実習の時間をふやす、職業倫理の科目を入れる、専任教員の数をふやすという方向で改定が計画されている。その中で再度上げるようなこともあるかもしれないが、現状では学費を下げるを得ないという判断である。
--	--

7. 平成 28 年度の重点目標と達成するための計画・方法について

○橋本校長より以下の説明が行われた。

- ・平成 28 年の重点目標は、昨年と全く同じ目標を掲げてある。今年は業務改善の視点から各学科、各部署の連携を意図的に構築する。具体的には、募集広報協議会と進路指導協議会の場を活用し、まずはそれぞれのポリシーの確認をし、仕事のベクトルをそろえつつ課題解決に取り組んでいく。
- ・1 番目の T P C の育成と強化については、授業シラバスに反映させるほかに、入学時のオリエンテーション、マナー指導、実習、学校行事等、学校の活動全般にその考え方を入れていく。特に今年度意識的に行っていきたいのは、指導成果を次に生かすため先行事例として共有することである。
- ・2 番目の退学防止については、昨年度の退学率 5.9% という厳しい数字が出ている。状況を早期に把握するために、クラス担任一人の指導だけではなく、カウンセラー、保健室等と連携し、事務職員も含めて複数の視点で学生を見守っていく。
- ・さらに、今年予定されている学生情報一元化システムによって、入り口から出口、卒業生も含めていろいろな視点から見たデータが残されていけば、それは後に生きてくると思う。その整備も並行してやりながら、よりよい教育をするための仕組みをつくる²ことが退学防止につながっていくと思う。
- ・また、退学防止の事例記録、退学届、学籍異動の記録についても事例として共有化できる形を考えている。教務委員会と進路指導協議会との連携によって各学科の入学時のオリエンテーションプログラムをさらに充実させること、アドミッション・ポリシーを明らかにして募集活動をすることで入学のミスマッチを防ぐこと等を意識しながらの事例の収集、検討も含めて、今年度はより具体的に進めていきたい。
- ・3 番目の教員研修は、今年は教務委員会を中心に、校長が責任者となって意図的に前に進めることをしていきたい。教育研究誌の事例報告についてもより積極的に進めていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 募集広報協議会について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□既にオープンキャンパス等が始まっていると思うが、募集広報協議会では具体的にどのような取り組みをしようと話し合ったのか。	□今回は学科の強みの確認という場を持った。それが具体的に今やっているオープンキャンパスの中に生きてほしいと思うが、当初決めたプログラムのほかに工夫しているところはあるか、先生方に確認したい。 □看護科も委員を出しているが、募集広報協議会の活動が可視化されて、下りてくるといいと思う。 □私の立場で言うと、募集広報協議会も進路指導協議会も、場をつくったのだからうまく活用してほしいということである。各学科の委員はきちっと学科の意見

<p>□現状ではまだ募集広報連絡協議会ぐらいの位置ということか。</p>	<p>をくみ上げて、またそこで出たものをフィードバックすることを意識的にやっていただきたいと思っている。</p> <p>□結果的に学生が集まっている、集まっていないという表現をする。そういった意識しかないのは、募集広報のスタンスとしてはどうかと思う。アドミッション・ポリシーに基づいて集めるという仕掛けが弱い。確かに現状は連絡協議会で、これを本当の意味の協議会にしていくのは、私も含めて教職員個々が意識しないと成り立たない。ベクトルをそろえて、一步踏み出したいと思う。</p> <p>□募集に関して今回初めて他の学科のやり方なども互いに情報共有しようという試みが始まった。学校全体で募集をしていく意識をつけていくために努力しているので、ある程度の効果は期待できると思う。</p> <p>□募集広報協議会のスケジュールを公開してはどうか。</p> <p>□前回は各学科の強みを3つに絞って発表するという課題が出て、多分各学科で話し合いが行われたはずである。その結果については、担当の先生からフィードバックがあったと思う。</p> <p>□鍼灸科にはまだフィードバックされていない。年間計画を示して、学科とリンクできるようなシステムでやってほしい。</p>
<p>□年間計画はあるのか。</p>	<p>□次回までの課題は出るが、年間計画はない。議事録はサイボウズに載るのではないかと思う。</p> <p>□リーダーもまだ手探りの状態ではあると思う。協議会という場なので、学科の委員以外の方もオブザーバーとして参加していいし、傍聴もできる。関心のある方、一緒に考えてみようという方は参加いただければと思う。</p>

以上